DBコミックス24

豊くんの仏法セミナー②

修羅の正体!!

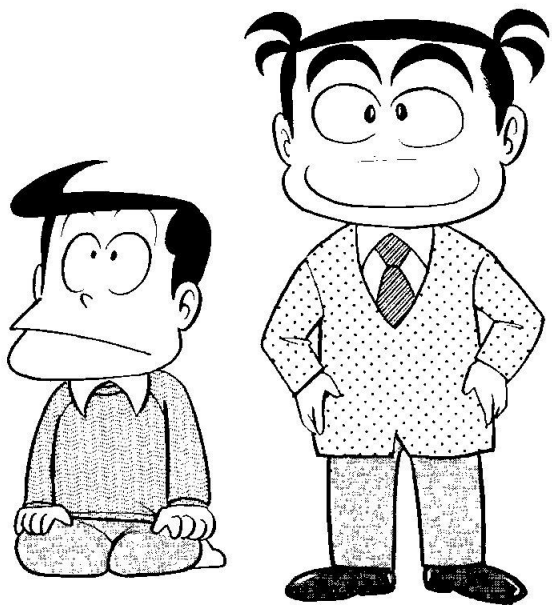
みなもと太郎

DB COMICS 24

DBコミックス24

豊くんの仏法セミナー②

修羅の正体!!



みなもと太郎

目　次

第1話■物忘れの名人 桀王(けつおう)と紂王(ちゅうおう)――3

第2話■塔(とう)と足代(あししろ)――18

第3話■帝釈天(たいしゃくてん)の勇気――33

第4話■修羅(しゅら)の正体――48

第5話■毒矢(どくや)のたとえ――63

第6話■衣裏珠(えりじゅ)のたとえ――78

第7話■サルの肝(きも)――106

第8話■乞眼(こつげん)のバラモン――121

第9話■500頭のサル――137

第10話■三草二木(さんそうにもく)のたとえ――154

第11話■老バラモンのぜいたくな邸宅(ていたく)――174

第1話

物忘れの名人 桀王と紂王

忘れるったって……きみ
友だちとあう約束してたんじゃない？
あーっすっかり忘れていた!!
えーとえーと

ほっ明日だったよかった〜〜
あぶないなあ〜〜

そーいう忘れん坊をきつくいましめた話をしてあげようね
えっどんな話？

これは中国の歴史書にあるんだけど
その昔魯の国の哀公という王様が……

孔子に
このような
話をした
世の中には
とんだ
忘れっぽい
人間が
いるものだ
孔子

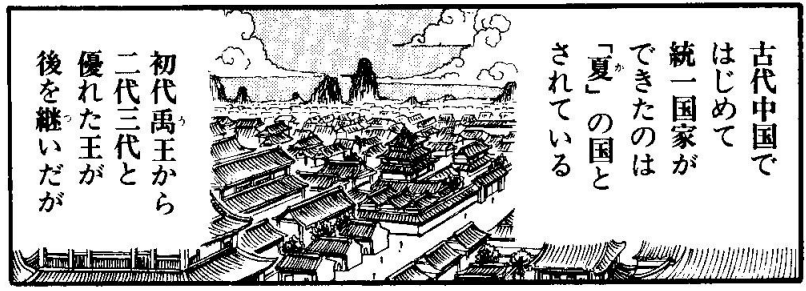
?
引っ越しを
したのはいいが
何かを忘れて
来てしまった
よく考えて
みたら
古い家に
妻を
置き忘れて
いたというのだ

はっはっは
こんな
忘れっぽい男は
他に
おるまい
いえいえ
もっと
忘れっぽい
人がおります

桀王と紂王こそはなはだしき物忘れの人です
おおーなるほどっ

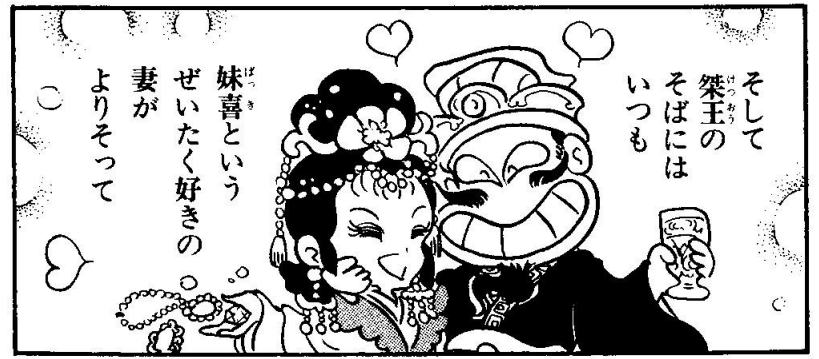
というお話わかる？
引っ越しの話はよくわかって面白いけど孔子の言ってることがさっぱりわかんないよ〜〜〜

では桀王と紂王の話をしましょう


古代中国ではじめて統一国家ができたのは「夏」の国とされている
初代禹王から二代三代と優れた王が後を継いだが

代が下るにつれて王の質は落ちていき
十七代目の桀王に至っては苦労しらずの世間しらずでいばりちらすばかり……

それをよいことに悪臣がはびこり
悪逆非道な政治を行い人民は苦しみのどん底…


そして桀王のそばにはいつも
妹喜というぜいたく好きの妻がよりそって

城中では
連日
飲めや歌えの
大パーティー
たまりかねて
王をいさめた
家臣は
次々に首を
はねられた！

地方には
すぐれた
諸侯もいて
なかでも
「湯」という人は
人民のために
つくしていたが

彼の
人望を
恐れた
桀王は
湯をだまして
城に招き
牢に監禁
したのである

やがて釈放された湯に諸侯が慕い集り

民衆も彼を支持しついに湯は桀王打倒の兵をあげたのである!!

四百数十年続いた「夏」もこうして十七代で滅亡

桀王と妹喜も哀れな最期をとげたという

桀王の名はいまも暴君の代表として語りつがれている……

ひえ

こうして殷の国が立てられ

これは紀元前十一世紀ごろまで約五百年続く……

紂王と妲己は
こびへつらう
悪臣だけを
周りに集め
豪華な
建築に
金をかけ
（宮苑楼台）
珍しい
動物を
とりよせ
桀王以上の
ぜいたくな
パーティーに
あけくれた

城中の
池は
酒が
満たされ
城の中の
木には
上等の肉を
かけて
林をつくり
連日酒宴に
あけくれた
のである
（酒池肉林）

桀王は
諫めた家臣の
首をはねた
だけであったが

紂王と妲己は
諸侯や家臣を
火あぶりに
したり
胸をさいて
殺し

それを
見物しては
楽しんで
いたのである

この紂王も
桀王と同じ
末路をたどった

乱れに乱れた
殷の国は
周の武王に
あっけなく
攻め滅ぼされる

紂王には七十万もの兵士がいたがだれも王のために戦おうとはせず

わずかな数の武王の軍に敗れ去った…ということです

なるとまあ…

みんな内心では王を見はなしていたんだね〜〜〜

やれやれ

夏の桀王と殷の紂王の二人あわせて

桀紂

といえば、その後ながく「暴君」「独裁者」の代名詞とされたのです

なるほどそうだったのか……

二人とも判で押したように同じ滅亡のコースをたどったんだね〜

共通点をさがしてみよう……

四百年もの時代の違いがあるのにね……

☆天魔…人が、正法を行じようとするのを邪魔する他化自在天の魔王のこと。

（孔子云く）桀紂の君は
乃ち其の身を忘れたり

——亡持経事（御書九七六ページ）

権力におごりぜいたくにふけった桀王や紂王は

「自分の身を忘れ」わが身を滅ぼしてしまったのです

自分を見失うくらい愚かでバカなことはありません

哀公もどうか彼らのような物忘れの名人にならないでください

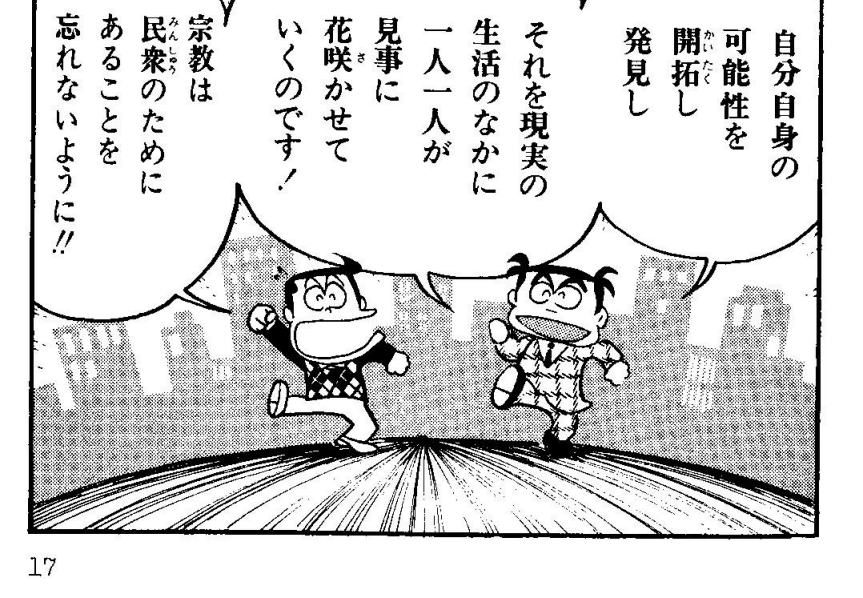
わかった気をつけるぞ

なるほど天魔の独裁者は自分を忘れ見失っているのか

いわれてみればいろいろ思いあたることばかりだよ

でしョ？

くわしいうらづけの説明は略しますがこの信心は
この生命に本来そなわっている「仏界」という
最高の生命状態を「思い出す」作業であるともいえます!!
わ〜〜〜〜忘れちゃってるんだ——


自分自身の可能性を開拓し発見し
それを現実の生活のなかに一人一人が見事に花咲かせていくのです!
宗教は民衆のためにあることを忘れないように!!

第2話

塔と足代

どうして——
ガーン
ガーン
いろんな宗派
仏教には
ドドド

だから
ダダダダダダダダ
て言って
るんだよ～
ガシャシャシャ
なにを
ドドドドドドドド
聞きたいのか
わからん
グワーンガガガン
マド
しめなさい
マドをっ
だいたい
サムイじゃ
ないかっ
ガガガガガガガガ
ドカーン
そうそう
空気を
いれかえて
たんだっけ

ビル工事の足場を建ててるんだよ
でなにが聞きたいって？
ぜーっぜーっぜーっ
ちょちょっとまって…
お正月にいろんな寺院がTVコマーシャルやってたんだよね
「初詣は○○寺へどうぞ」ってやつね
テレビばっかり見てたんだね
それで？
浄土宗とか禅宗とか真言宗とか…
おんなじ仏教なのにどうしてあんなにいろんな宗派があるの？

ドドド……
ビルの足場を建ててるんだよね……
足場の話なんかしてない——っ
宗派の話をしてるんだーっ

日蓮大聖人はその足場の話をして君の質問に答えられています
げ!?

なんで鎌倉時代にビル工事が出てくるのさっ
ビルじゃなくたって大きな建造物を建てるには
足場が必要なんだよ

大塔をくみ候には
先ず材木より外に
足代と申して
多くの小木を集め
一丈二丈計り
ゆひあげ候なり

（上野殿母御前御返事
御書一五六九ページ）

昔は
足場を
足代といって
たんだね

かくゆひあげて
材木を以て
大塔を
くみあげ
候いつれば

こうして
足場をくんでから
塔をつくり
その塔が
完成すれば……

くわしい
ねえ…

返って足代を切り捨て大塔は候なり
今度は逆に足代をとりすててはじめて塔が完成したといえるのです
ばんざーい!!
どーしてこれがいろんな宗派と関係があるのさ
足代は塔を建てるまではたしかに必要なものだけど
御書
塔が完成すれば足代はとりはらわなければいけないものです
あたり前だよじゃまだよ

釈尊が菩提樹の下で開いた大いなる悟り―妙法は
あまりにも深く高度であるためとても人々に信じさせることはできなかった
もしこの法をストレートに説いても彼らはかえって疑いをおこし批判して仏にそむき
地獄におちてしまうだろうそれではかわいそうだ
しかし何としてもこの法を伝えねばならぬ
少しずつ仮の教えや方便の教えあるいは少し高度な教えを説いてみちびき
私の真実の説法を聞いても疑いを起こさぬ水準までひきあげていくほかはない

幼稚園の生徒にとつぜん相対性理論を説いてもわかんないようなものだね
E=mC²
?
ひえ〜〜
でもあまりにもレベルの低い教えを説いてもバカにするしね
インテリというのはこまった人たちだね

釈尊は最初の二十一日間はけっこうむずかしい法を説いた
弟子たちは「これはなかなか深い教えらしい」とけんめいに耳をかたむけるようになった

そこで今度は十二年にわたって理解しやすい教えを説くと
みんなはよくわかるのでよろこんで学び従ってくる……

彼らの
レベルアップを
見て
次の十六年は
少しむずかしい
法を説く
…と
いった
ふうに

なかなか
大変
だね
〜〜〜

人々を懸命に
救い導いていく
仏の慈悲です

しかしこれは
歴史的事実と
いうより
天台大師が
理論的に
立てわけた
順序です

現実には
相手によって
そのつど
ふさわしい教えを
説いていったと
考えられます

（天台大師）

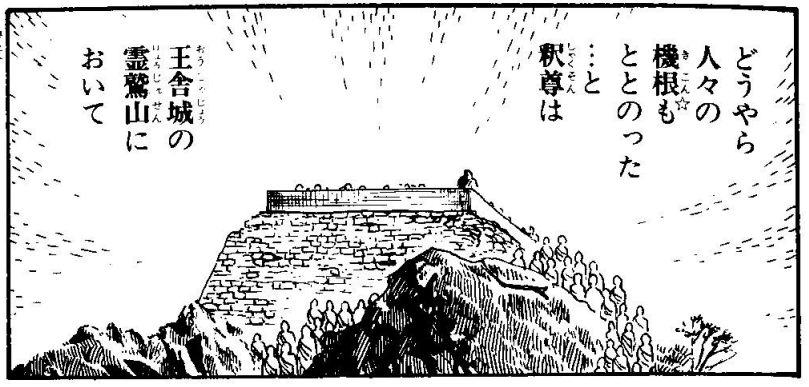
こうして
次々と
説かれて
いった
教えを
まとめたのが

華厳経
阿含経
大日経
阿弥陀経
般若経
……
などです

弟子たちが
どうにか
理解を深め
求道心が
不動になるのは
四十年余り
たってからだ!!

ぎえ〜〜〜

☆機根…仏の説法を受け入れる精神的な能力。



私がこれまで
四十年以上に
わたって
説いてきた
教えは
まだ真実を
明かしてはいない！

そなたたちに
本当の法を
聞く力を
つけさせるため
仮に説いた
方便である

いまこそ私は
正しい法を説くから
これまでの教えは
すみやかに捨てて
しまいなさい！

え――っ

こうして
その後
八年に
わたって

釈尊は
自らの悟った
真実を
「法華経」と
して説いた

それによって
すべての人の
成仏の道を
明らかに
したのである

そして
これで自らが
世に出た目的を
果たした
といって

それから
ほどなく
涅槃に
入ったので
ある……

う～ん
尊い生涯
だなあ

これでわかったでしょ？
え？何が
だから二千数百年前すでに釈尊自身が
これまでの教えは方便でありすみやかにすてなさい
とのべているにもかかわらず

言うことをきかずいまだにその方便の教えにしがみついているのが
阿弥陀経（浄土宗）
華厳経（華厳宗）
阿含経（成実宗）
大日経（真言宗）
般若経（三論宗）
わ～っそれが仏教にいろんな宗派がある理由なのか～っ

これは太陽が昇ってからも星あかりをたよりにしているようなものであり
占くなったごはんを食べるようなものであり
マイナスの結果しか出てこないのです

仮の教え(爾前経)を
大事にして
法華経を信じない
念仏、禅、
真言などの
人びとは

まるで
足代を大事にして
塔をすてている
ようなものだ——と

釈尊は法華経のなかで

やがて末法という時代が来て人々の心が濁り世の中が乱れ私の法の力が及ばなくなったとき

この法華経の奥底に秘められている根源の一法が全世界に広まり多くの衆生が救われていく……！

という意味の予言を残しています

予言通り悪世末法に出現された御本仏日蓮大聖人は

釈尊等三世十方の諸仏を生みだした根源の一法

「南無妙法蓮華経」を説き明かされたのです

今末法に
入りぬれば
余経も法華経も
詮
せんなし、
但南無妙法蓮華経
なるべし

上野殿御返事
（御書一五四六ページ）

第3話

帝釈天の勇気

とうとう
モスクワ支部が
出現したね
一年前は権力者が
最後のあがきのように
三日間クーデターを
起こしていたのに・・・
時代逆行の
勢力は
必ず敗北
する・・・と
ある通り
だね
三国の地位を決定
解体
HUMAN

だけど力ずくで国を奪おうとするほどの権力を持っていた人たちが

ああもあっけなく逃げ出すとは思わなかったな〜〜

よく似た話が仏典にもあるよ

あるとき戦いの好きな阿修羅王が帝釈天の城を攻めたことがあるんだ

わっ

戦いは最初
五分五分だったが
さすがに
阿修羅は
いくさなれ
しており

帝釈天の
軍勢は
じりじりと
押されて
いった

帝釈様
このままでは
わが軍は
全滅です

残念だが
いったん
ひきあげて
軍を
立てなおそう

しかし
それを見のがす
阿修羅では
なかった

それい
敵は
くずれた
ぞ

勝ちに乗じ
一気に追撃
してきたのである

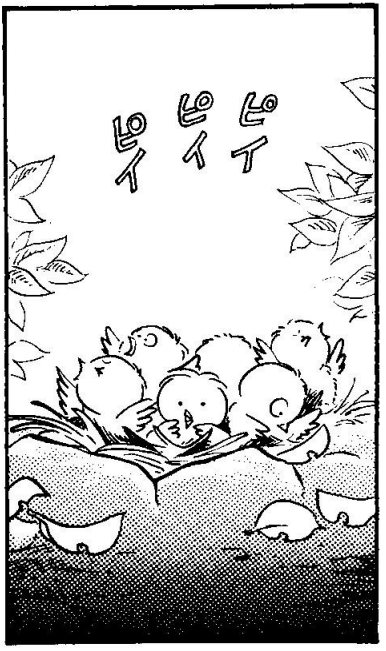
帝釈天の
軍勢は
逃げに
逃げたが

わーっ
ぎゃーっ

追われる者の
悲しさで
一騎また一騎と
倒されていく
……

それでも
けんめいに
逃げる
帝釈は

どうやら
阿修羅王の
追跡を
ふりきるかに
みえたが……



帝釈天たちが進もうとした道の足元には「金翅鳥」という鳥の巣があり

小さなヒナ鳥が親鳥の帰りを待ちわびて鳴いているのだった

ピイ ピイ ピー

帝釈様なぜ急に車を止められるのです

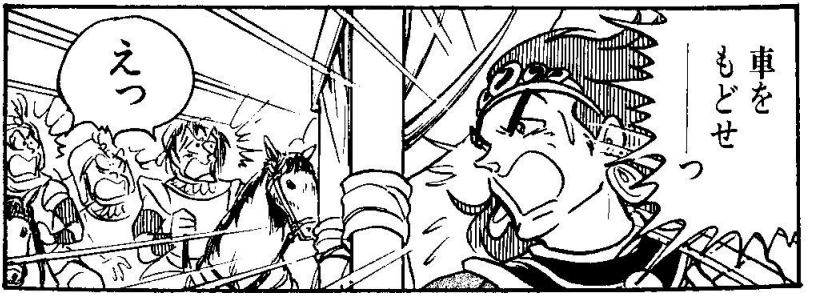
早く逃げねば阿修羅王がすぐ後ろに……!!

……まて!

帝釈天は仏の教えを常日ごろから敬っていたのである

戦に何の関係もなくわが身を守る力さえないこのヒナ鳥をどうしてふみ殺して行けよう……

私はここで阿修羅に負けて殺されようとも仏の教えにそむいてまで逃げて生きのびようとは思わない…!!



ヒナ鳥を救うため帝釈天は死を覚悟し

わあっ

向きをかえ阿修羅王に反撃を開始したのである!!

ややっ

こ……こ……

これはどうしたことだ……

そうか帝釈の作戦だ!!

やつらは森に大軍をかくし我々をここまでおびきよせたのだ!!

わあ〜〜罠だったのかーっ!

に逃げろ——っ

退却——っ

形勢は
たちまち
逆転した

おびえきった
阿修羅王の
目には
帝釈天の
軍勢が
十倍にも
二十倍にも
数を増した
ように見える
……

ひええ
ええ
え〜〜〜

こうして
軍勢は
総くずれ

あれほど
強そうに
見えた
阿修羅の
軍は
クモの子を
散らすように
逃げていった……

帝釈天は
大勝利を
おさめ

天上界に
平和が
訪れたので
ある――

一方
死にもの狂いで
逃げた
阿修羅王は

須弥山の
ふもとの

無熱池と
いう
池の中の

蓮の
あなの
中で

ぶるぶるといつまでもふるえていたそうです……

へえーっなるほどよく似た末路だねえ

いー気味

べつにこれは戦争を肯定したお話じゃないよ

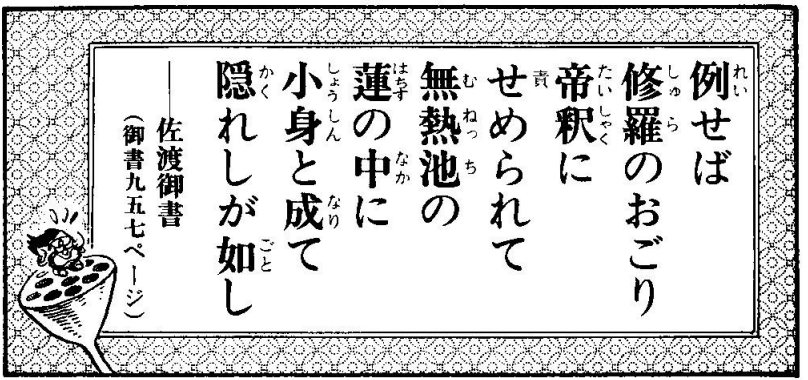
あ・そ

権威、権力力ずく――

おごりたかぶったみにくい生命の正体がここにあらわれています

傲

おごれる者は必ず強敵に値ておそるる心出来するなり


例せば
修羅のおごり
帝釈に
せめられて
無熱池の
蓮の中に
小身と成て
隠れしが如し
——佐渡御書
（御書九五七ページ）

帝釈天とは
法華経を
持つ人を
守る
諸天善神の
一つですが
広い意味では
「真実を
見ぬく人」にも
たとえられる
そうです
へえ〜〜〜

ともあれ
大きく見えた
修羅の命は
自分より
強いものに
出会うと
たちまち
みじめな姿を
さらけ出すの
です
!!
あわれだ
ねえ〜〜〜

戦いが逆転した
きっかけは
何か

それは
ヒナ鳥の
命を
守ろうと
決意した
ときでした

一人の人を——
あるいは
弱者を
どこまでも
守りぬこうと
決意
したとき

人は
どこまでも
強くなって
いくことが
出来るのです
!!

あーっ

自分本位の
小さな
エゴのために
戦っている
者は

自分より
強いものに
身をなげうって
立ちむかう
勇気はないのです

みにくい権力やエゴのためでなく

人間の尊厳を冒させてなるものかと

民衆とともに利他の実践に立ち上がる人こそ！

正義の勇者だ――っ

第4話

修羅の正体

では引きつづいて帝釈天に敗れた阿修羅王について考えてみよう
それはよかったぼくも聞きたいことがあったんだ

君が質問をしてくるとはめずらしい……
あの時の帝釈天の敵方の阿修羅は
悪の生命の姿をあらわしたもので
実在してるというわけじゃないんでしょ？
そうだね
日蓮が大義も強くせめかかる修羅と帝釈と仏と魔王との合戦にも・をとるべからず
——報恩抄
（御書三一三ページ）

この生命にも宇宙にもそなわっている修羅界——

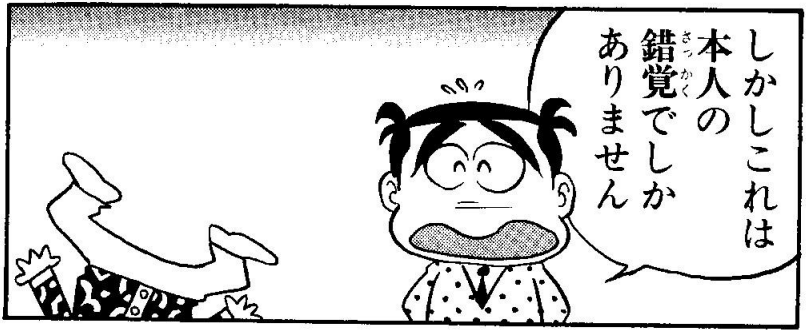
それを擬人化したものと考えていいでしょう

だれにでもそなわっているというのがコワイ……

修羅は強大です

帝釈との戦争も巨大化した修羅の一方的な攻撃からはじまったのです

わ〜〜〜っ
でかい


しかしこれは本人の錯覚でしかありません

おごり高ぶる人は自分がとてもえらく大きくなったような気がするんだね
オレを何サマだと思ってるんだ
えんえんぷい
修羅の姿はそれをのべたものです
アンタこそ何サマのつもりよ
いばり屋さんのことかぁ

ところが着ているものとか外見でしか判断できない人や
権威・権力に弱い人は本当に大きいのだと思ってしまう…
本質を見ぬけないんだ…
へこへこ

地位が
エライんじゃなくて
地位にふさわしい
行いができて
いるかどうかが
問題なんだけど

この人たちは
その区別が
つかないんだ

ほほー
君でも
わかるか

まァバカでも
わかること
だけどな

修羅の
いのち

は、話が
それたから
もとへ
戻しましょう

日寛上人は
三重秘伝抄で
このように
のべられて
います

修羅の行動

修羅は身長
八万四千由旬
四大海の水も
膝に過ぎず

一由旬は
軍隊の一日の
行軍距離

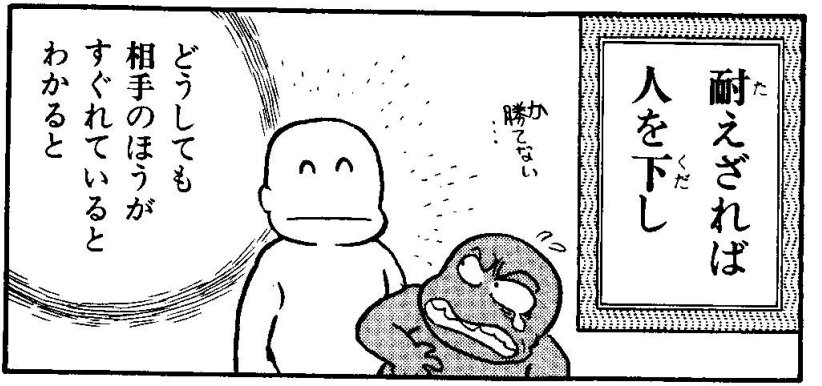
修羅はたしかにでかいと思うけど
四大海の水が膝下までしかこないっていうのは少し大げさだね
さあどうかな？

ヒトラーなんて人は地球全部を手のひらにいれようとしていたんだよ
ちょっとチャップリン風に
なるほど独裁者はそこまで行くか

☆摩訶止観…中国・隋代の天台大師講述の書。天台大師の出世の本懐の書とされる。

つまり心の中にいつもいつも相手に勝ち続けたい勝ち続けたい——という望みが

二十四時間中一瞬もやすみなくわきあがり続けているというのです


耐えざれば
人を下し
勝てない……
どうしても
相手のほうが
すぐれていると
わかると

自分がその下に
いることが
耐えられなく
なり
ウソでも悪口でも
暴力でもどんな
手段をつかってでも
自分が優位に立つために
相手を下そうとする——

おそろしい
命だ
ねえ〜〜〜
恨み、怒り、
やきもちに
支配された
生命です

他を軽しめ
己を珍ぶこと
鵄の高く飛びて
下視が如し
フン
他のすべてを
軽んじて
自分だけが
尊いと思いこむ
その命は
まるでトンビが
はるかな高みから
地上を見下ろして
いるような
姿である——

自分以外の奴なんかどうでもいいというか
バカにしきっているんだ……
やきもちやきのくせに
人としての慈悲心のカケラもないね

ところが外面はさも慈悲があるように見せかける工作をする!!
げげっ

天台大師はそんなことまで書いているの〜?
見ぬいてますねェ♬
千五百年前にすでに

而も外には
仁・義・礼・智・信
を掲げて
下品の善心を起し
阿修羅の道を
行ずるなり

外見、つまり
世間には
仁義礼智
信…つまり
超一級の人格者の
徳を備えているような
ふりをする……

（仁・義・礼・智・信…
儒教などにとかれる
人としての徳の条件）

阿修羅の道をまっしぐらにつき進んでいくのであった
完
以上全巻のおわり
いやだねえ〜〜〜
パシ
こんな強い奴にどうすれば勝てるのさ
強くないもん
修羅とは憶病者の異名にすぎません!!
わっ

相手が弱いと見れば どこまでも 嵩にかかって きますが
まぼろし
自分より強いものに立ちむかう勇気はありません
自分がいちばんかわいいのですから
めっ
ひい〜〜〜
正体
修羅より強いのは修羅なの？
どうどうめぐり
それじゃおわらないね
修羅に勝利した帝釈天とは「正しい人」「真実を見ぬく人」という意味があるのです
エライ、強いと思えるのは幻想にすぎないのですから
真実を見ぬく人に責められれば修羅はたちまちちっぽけな本性をさらけ出してしまうのです
はあ〜〜〜

権威などにだまされてはならない!!
皆さまは真実を正しく見ぬいて行けるかしこい人間になってもらいたい――と
池田先生がくりかえしスピーチされているのは
そーいう意味があるのか～～～

「真実ほど強いものはない!」という言葉があるけどホントウなんだね
そうです

だから独裁者は必ず民衆に決して真実を知らせず無知のままにしておこうとするでしょう
かしこくなってもらっちゃこまる
文句いわずだまってついてこい
へえ～い

逆に
正しい
指導者とは

民衆を
かしこく
すること

真実を
正しく
見る目を
養って
いこうと
するでしょう

第5話

毒矢のたとえ

豊くんはいつもいろんな話をしてくれるけど
そんな話は全部でどれだけあるの？
…そりゃ仏典は八万宝蔵というぐらいだから
スゴイ質問だなァ
説話だってちょっと数えきれないよね……

そうか……
それじゃ仏法を全部わかって修行できるまでまだだいぶかかるな……

そんなコト言ってたら仏道修行なんてできないでしょー

だって知らないことがあるうちはどうも……

それは順序が逆ですッ

そういう考えの人は釈尊の時代にもいました

えっ そんな昔に!?

その人の名は髪童子といいます

鬘童子が釈尊のもとをおとずれて言うには
私にはさまざまな疑問があってなかなか仏道修行をする気になれないのです

たとえば宇宙の実体がわかりません
はたして永遠なのかそうでないのか

また広さはどのぐらいあるのか？
この世の果てはどうなっているのか？
…そういった疑問はまだまだたくさんあるけど

それらのことがわからないうちは

私は仏道修行にとりくめない

あなたも仏ならこたえてもらいたい!!

仏とはもちろん三世（過去世・現在世・未来世）も十方（一切の空間・世界）も見通せる人だ

しかしそれ以前に髪童子の根本的なあやまちを正さねば、と考えた

釈尊はにっこり笑って

それではおもしろい話を一つ聞かせてあげよう

え？

昔ある男が…

どこからか飛んできた矢に刺されてたおれた！

しかもその矢には毒がぬってあるらしい

は、早く手あてをしないと君は死ぬぞ

そ その前に私は

知りたいことがたくさんある……

この矢はどこから飛んできたのか？

矢を射たのはどこの何という人だろうか？

過失かそれともうらみがあってか

男か女かまた年齢は？

どんな人相の人だろう……

あのねえ〜っ

そんなことより先に矢をぬかねば……

いや、これらの疑問も解決できずに
どうして矢がぬけるかね!!

…この矢の材質も知りたい
桑の木か槻の木かその他の木か
何という鳥の羽だろう
イラ
イラ

そういうこともわからないままこの矢をぬいてはならない
弓の弦は糸か獣の筋か
弓の色は黒かな赤かな白かな

このように
次々と
疑問が
わきあがり

毒が
どんどん
ひろがる
のも
かまわず

彼は
すべての
ことを
知りたいと
願った
……

はあ〜〜

愚か者なら
何も考えず
矢をぬきたがる
だろう

しかし
私は
頭のいい
インテリだ

すべてを
知らねば
矢をぬく
ことは
できない

しかし
そう言っている
あいだに

毒がまわり
彼は
苦しみながら
死んでいった…

鬘童子よ この男を りこうだと 思うかね
どこが
そいつは 世界一の 愚か者ですぜ
毒矢をぬかぬ 愚か者とは
鬘童子 そなたの ことなのだ
これが 有名な 「毒矢の 譬」です
ひょっと したら このボクも おなじ あやまち を……
ピンポ～ン そうなの でーす♪

仏法は観念の遊戯ではありません

大事なのは人生の苦悩を解決するために

まず実践することです!!

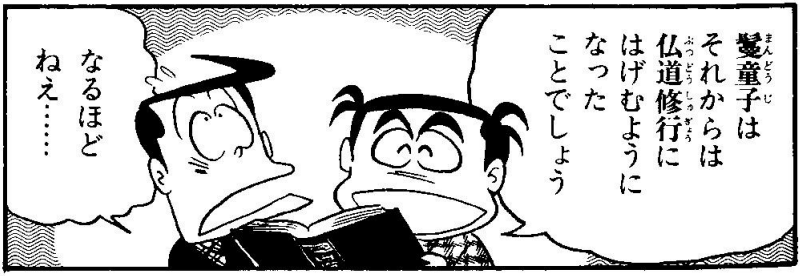
世界の果てとかそんなことを論ずる前に

人はみな生老病死の四苦がありさまざまな悩みをかかえている……

まず矢をぬき毒のまわるのをふせぐのが

何より先にいそいでやらねばならぬことであり

人生においてまずとりくむべきことは



☆四苦八苦…生老病死の四苦と愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五盛陰苦を加えたもの。あらゆる苦しみのこと。

母乳には複雑微妙な成分がふくまれていて赤ちゃんはすくすくと育ちます
粉ミルクのメーカーはその成分を研究していますが
その成分の本質的な解明にまではいたっていないそうです
?
成分がわからないうちはおっぱいなんかのめないよ
という赤ちゃんはどこにもいません
テレビのしくみがわかるまで番組は見ない！
なんて言ってたら何も見れないよね
そうね

仏法も同じです

わかってからやります

と言う人はいつまでたってもわかりません

しかし理屈は十分にはわからなくとも

この信心を実践していけば必ず何らかの功徳の体験をつかんでいける！

それから

いったいどうして功徳があるのかな？

などの疑問を解決するために勉強してもちっともおそくないョ

いや
仏法に
かぎらず
さまざまな
学問も

実験証明
という
うらづけが
あって
はじめて
正しいと
いえます

それがないと
ただの空論に
なってしまう
のです

まして
南無妙法蓮華経は
生命そのものの
真実を
あますところなく
説きあかした
大法理です

実践しないで
百年千年と
研究しても
本質は
いつまでも
理解できないと
いっていいでしょう!!

創価学会の
戦いにより
この信心を
している人は
いまや
世界に
広がりました

でも
御本尊が
どういうものか
そのすべてを
理解して
入信した人は
おそらく
いないでしょう

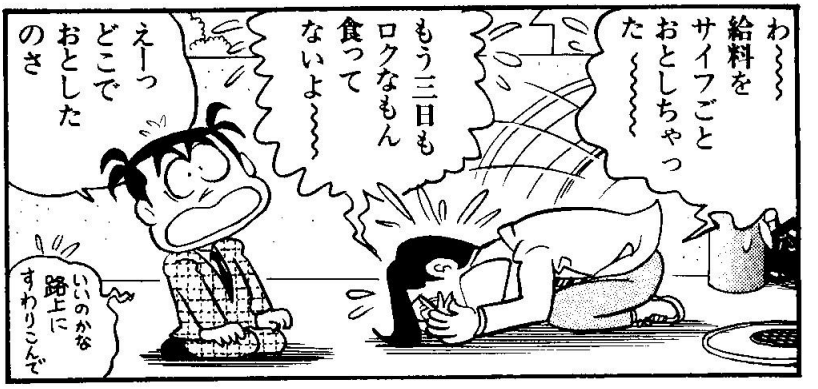
しかし
この信心が
正しいが
ゆえに

まじめに
実践した人は
だれもが
すばらしい
実証を
示して
いるのです

みなまず
毒矢をぬくこと
から
はじめたんだ！

第6話

衣裏珠のたとえ


わ〜〜給料をサイフごとおとしちゃった〜〜
もう三日もロクなもん食ってないよ〜〜
えーっどこでおとしたのさ
いいのかな路上にすわりこんで

それがわかればとりにいくよっ
そりゃまそうね……

気がついたらなかったんだよ
上着の内ポケットにしっかりいれておいたのに……

あれ？

ポケットの下がぬけてて
底の方になにやらカタいものが……
ぬいでごらん

あ〜〜っ
これは
ひょっと
したら

服のウラ〜〜

肌身
はなさず
持って
いたんじゃ
ないかっ

あ〜〜
うれぴい
よお
〜〜

…どんな
すばらしい
ものを
持っていても

それに
気づかな
ければ
持ってないのと
同じで

つらい思いを
しなければ
ならない
でしょ

うん
実感……

実はこれと
そっくりな話が
仏典に
説かれて
いるのです
!!

わっ
これは
プロローグ
だった
のか

聞き
たいっ

むかし…
一人の男が
親友の家を
訪ねました

身分の高い
この家の主は
昔なじみの友を
歓待します
酒をくみかわし
話がはずむうち
男は酒に酔い
疲れが出たのか
寝てしまいました

男が目覚める前にこの主人に公用ができました

ご主人さま役所から呼び出しがきております

目がさめたとき私がいないのは気の毒だな……

くらしも楽ではなさそうだし何か彼にしてあげられることは……

そうだ宝珠があった

主人は親友に「無価の宝珠」というはかりしれぬ値打ちのある宝石をあたえました

なくさぬよう衣のうらにぬいつけておこう

安心して主人は立ち去り

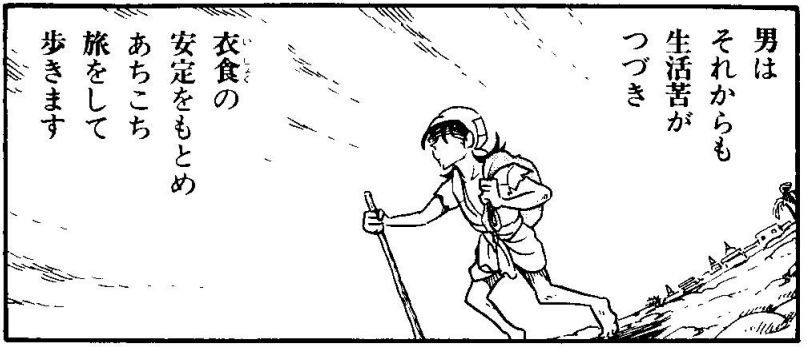
これで彼も幸福になることだろう

しかし

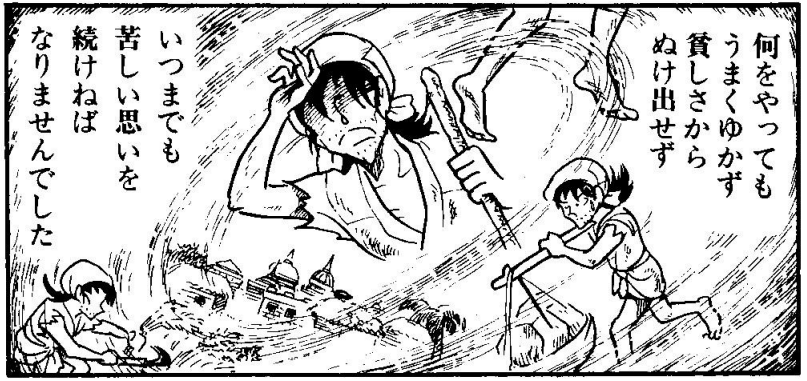
あ〜〜〜あよく寝た

彼は酔って寝ていたため

そのような宝石をぬいこんでくれたとはまったく知らずに家を出ました


男は
それからも
生活苦が
つづき
衣食の
安定をもとめ
あちこち
旅をして
歩きます

衣の裏の
宝珠に
気づく
ことなく
彼は
わずかな
糧を求め
いろいろな
仕事をしますが


何をやっても
うまくゆかず
貧しさから
ぬけ出せず
いつまでも
苦しい思いを
続けねば
なりませんでした

やがて
男はもとの国にもどり
友人と久しぶりにであいます
なかなかいいことがなくてね
えっ
そ
その姿はどうしたんだ
君は無価の宝珠を持っているはずなのに…!!
無価の宝珠…?なんのことだ
では…君は何も気づいていないのか?

そうか…
君は
酔って寝ていて
まったく
知らなかったんだ
そのために
しなくてもいい
苦労を
したんだよ
ええっ

話を
聞きおえ
男が
あわてて
衣をさぐると

親友の
言葉どおり
そこには
無価の宝珠
が
あっ
…!!
不滅の輝きを
放っていたのです
……!

ぼくは何という
おろか者だ
こんな
すばらしい
宝をちゃんと
持っていたのに
……
それに気づかず
さまよい歩き
たまに
つまらぬものを
手にいれては
最高のものの
ように思って
しがみ
つき
やがては
それも
失って
悲しんで
いた……
でも、もう
そんな苦しみを
くり返すことは
ないんだ
これ以上は
ないという
最高の宝を
得ることが
できたんだ
から
!!
よかった
本当によかった

これが「法華経」という最高の経典に説かれている「衣裏珠の譬」というお話です

ねっ

ちえ〜〜〜ボクの失敗によくにた話をひっぱりだしてバカにして……

君をバカにしてるわけじゃないよ……

私たちはみ〜んなこの愚かな男のようなものである……

仏法はそう説いているのです！

えーっ世界中みんな!?

ボクだけじゃないの？

私たちの生命の奥底には

ぜったいくずれぬ幸福境涯ともいうべき仏界がそなわっています

この物語の無価の宝珠とは
すなわちこの妙法のことであり

衣の裏とは
生命の奥底をさしています

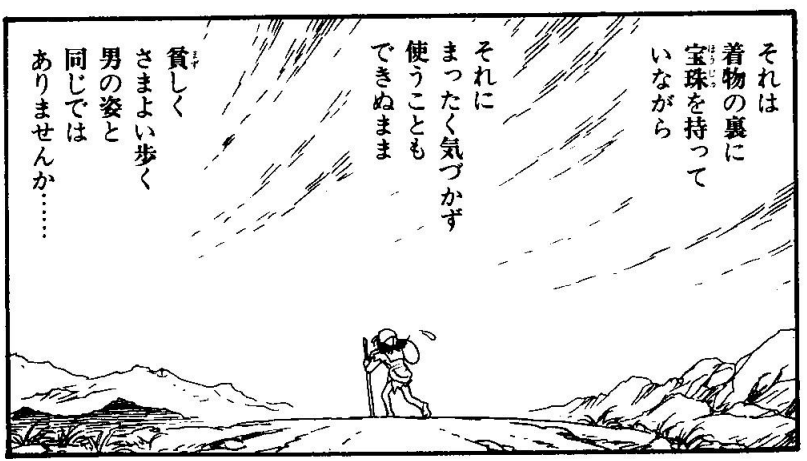
人はみな残らず仏性を持っているのですから
本当は幸福に暮らせるはずなのです

しかし実際には尊い仏性を輝かして
歓喜に満ちた人生を歩んでいる人がどれだけいるでしょうか——

我等衆生・無始曠劫より已来・妙法蓮華経の如意宝珠を片時も相離れざれども・無明の酒にたぼらかされて衣の裏にかけたりと・しらずして少きを得て足りぬと思ひぬ

（主師親御書　三八六ページ）

私たち衆生は、無始のはじめから妙法蓮華経という最高の宝珠を片ときもはなさず持っているのですが愚かな低い教え（酒）にあざむかれ生命の奥底の宝を知らずわずかな物を得ては喜んでいたのです。



幸福は人から与えられたり
何かにすがってできるものではありません
無限の力を持つ仏性をわきあがらせて
自分自身で切り開いていくことです!!
その幸福をつくる根本がこの信心であることを法華経はおしえているのです!!
ただのうっかり者の話じゃなかったんだね……

この物語は法華経の五百弟子受記品に説かれている話です
この話の五百人の弟子は
師の釈尊にこのように告げます
私たちははるかな過去世に正しい法をおそわっていながら
謗法に染まってしまいそれをすっかり忘れていました
その結果長い年月この物語の男のようにまちがった低い考えにとらわれまたそういった邪見の家に生まれつまらない境涯を堂々めぐりしていたのです

しかし今釈尊から正しい法を聞かされ私たちは謗法の酔いからさめることができました!!

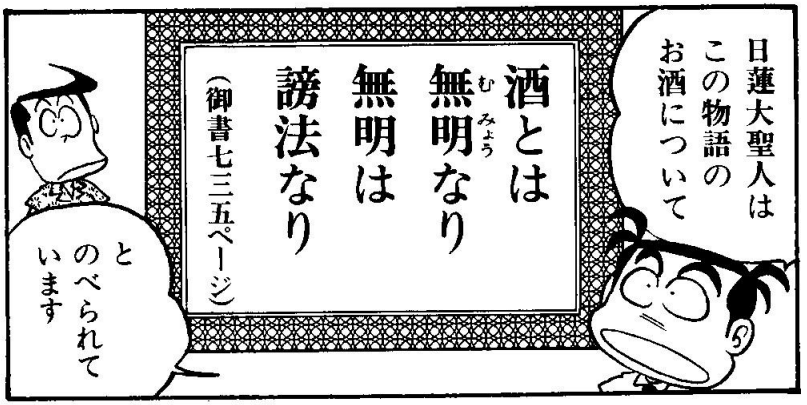
といって大いに喜んだということが説かれています

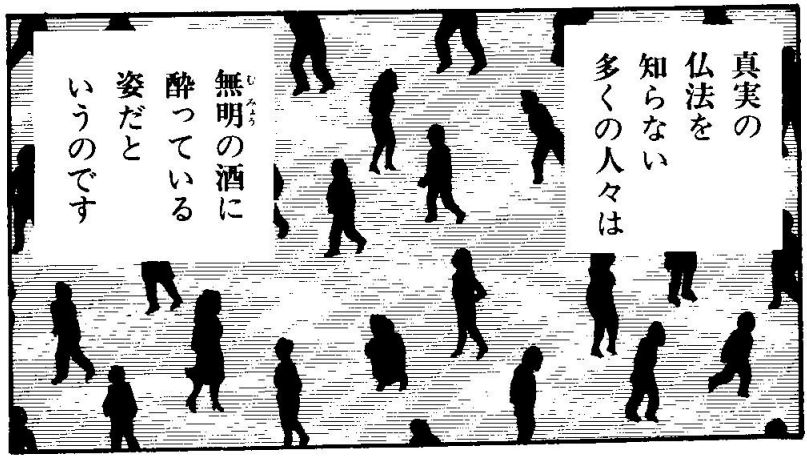
さてこの

酒に酔う――ということだけど

これはなにをあらわしているんだろう

え～っとわかりません


日蓮大聖人はこの物語のお酒について
酒とは無明なり無明は謗法なり
（御書七三五ページ）
とのべられています


真実の仏法を知らない多くの人々は
無明の酒に酔っている姿だというのです

無明ってなに？
明らかで無い
真実がわからない迷いの生命状態です

ある人が酒に酔っている時と――
うう～い
酒
しゃきっ
まったくさめている時と
この二つの姿はまったく別な二人の人間だろうか
それとも同じ一人の人間だろうか
そりゃおんなじ人だよ～
一人だよ

ならば酔っぱらってるこの人を
人間としてどうしようもないといって見放してしまっていいのかしら?
それはいけないよね
さましてあげればいいんだから
そーですここに偉大な仏法の人間平等の思想!
大慈悲(じひ)の精神があるのです!!
えっどういうこと!?

目先のことしか
見えないで
低い考えや
つまらない
思想に
たぼらかされ
メチャクチャな
人生を
送っている
人も

それとは逆に
ものごとを
正しく見れる
偉大な思想にめざめ
雄々(おお)しく立ち上がった人も！

全世界の人々を根底から幸福にしていく

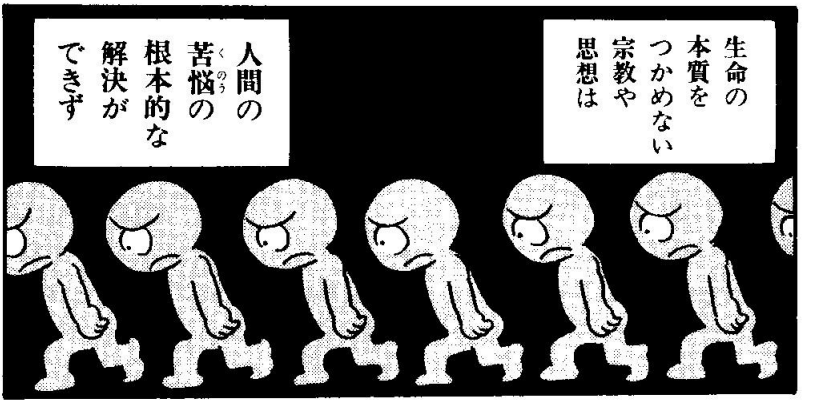
それだけの力がこの仏法にはあるのです!!

謗法に
酔うとは
本当の自分を
見失っている
姿です
酒

末法において
日蓮大聖人の
仏法だけが
私たちの
酔いを
さまし
不幸な
宿命さえも
打開する
ことが
できるのです!!
ひえ〜〜〜

この信心を
して
本当の自分に
立ち返る
のが
酔いから
さめた
姿なのです!!

☆六道輪廻…凡夫が六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天）の迷いの世界をくりかえすこと。



ですから そういう 低い教典は
ある人は 救われるが ある人は 救われない―― などと説きます
差別を して いくんだね
はなはだ しいのに なると
神にそむいた人や 呪われた民族は 永久に地獄に堕ちて 救われないのじゃ
とまで いいだすん だよ……
もっと はなはだしい 宗教が 最近できたね
葬式や 法事に 坊主を呼ばず 信徒だけで 行うと 地獄に 堕ちるって
……
ありゃもう メチャクチャ だね〜〜

☆外道…仏教以外の教え。

法主だけが特別な何かを持っているように言ってみたり
僧や俗に差別をつけようとする輩は
仏法者でも何でもない天魔外道の姿なんだ〜〜
衣裏珠の精神がまるでないっ

それはともかく一人でも救われない人がいるのであればそれは完ぺきな教えとはいえません
それはそうです
あらゆる人を根底から救いきっていけるのはこの仏法だけなのです

この酔っているさめているというのも
実は何段階もあるのだそうです
へ？

因果の法則すら説いていない低い宗教を酔っていると見れば
釈尊の説いた仏法はことごとくさめている教えです

その仏教のなかでも
法華経以前に説かれた仮の教え（権教）は酔っている状態です
法華経はさめている状態です

法華経も前半は浅く後半は深い教えです
前半は酔っていて後半はさめているといえます

南無妙法蓮華経

そして
いかなる種類の
酔いをも

完全に
さますのが
日蓮大聖人の
三大秘法の
仏法です！

わ――っ

この
最高の
仏法である
大御本尊を
信受する
ことが

生命の奥底に
ある仏性
という宝を
取り出すこと
なのです!!

それで幸せの
人生が開けるのか～

第７話

サルの肝（きも）

むかし…インドの海岸ぞいの山林に一匹のサルが木の実をたべてくらしておりました
おお〜〜ひさしぶりにイソップ風なお話
でも非常に大切な話なんだよ〜〜〜

そこに少し人相の悪いカメがやってきて
もしもしカメよ…じゃなくしておサルさん
へんなのがきたなァ

カメなら人相じゃなくてカメ相でしょ
人間並みに悪だくみをしてたから…なんちて

そんな山の中よりねェもっとおいしい木の実がある所を知らないんですかー?

え
それは食いしん坊のサルにとって一番だまされやすい弱点であった

そ
それはどこ!?
あたしのすんでる海の底――!!

そこに行けば
あなたは
幸福に
なれる!!

さあさ
背中に
のんなさい
つれてって
あげるから

いや〜
そりゃ
うれぴい
なァ

こうして
サルは
まんまと
だまされた
……

もほほほ
もう
こっちの
もの

えっ

ねえ
サルさん

実は
私にも
女房が
いましてね

金づかいの
あらい?

そーじゃ
なくてっ

少し
病弱
でしてね

なーんだ

聞くところによるとサルの肝が特効薬なんだそうです

なるほどねそれで私を海の底に……

げえ〜っ

もほほほもうどうあがいてもこっちのもんですよ〜だ

うう〜〜〜

サルはサルなりに必死で考え

やがて名案を思いついた

な〜んだそれならもっと早く言えばいいのに

え？

肝は洗って木にほしてあるんだもん
えっ

すると あんたを 溺れ殺しても おなかの中に ……
ちえっ
ないんで ゴザルよ
いや〜 ざんねん

引き返せば とってきて あげるけどね
えホント？

いや〜〜〜 あんたが 親切な おサルさんで よかった
いやいや お互い さまで ゴザル

おおー あんなにいそいでとりに行ってくれる

こうしてサルは九死に一生を得た……

はーっ はーっ はーっ

あ～ あぶなかった～～

イラ イラ イラ イラ

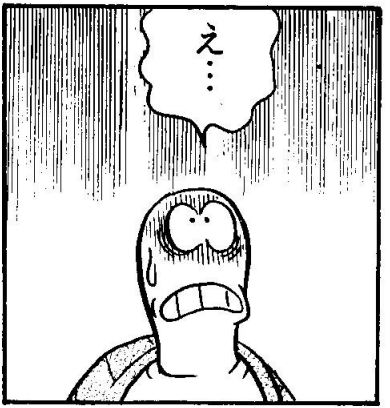
なにしてんだろなぁ

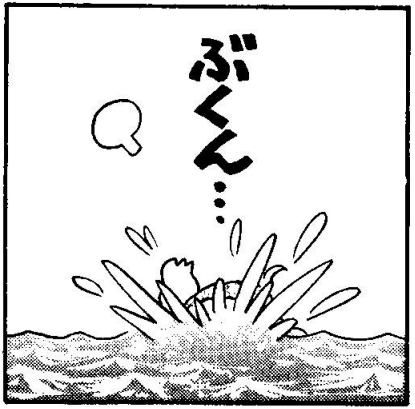
サルさんよー

早く肝をもって来てよー

カメさん
私は
あんたに
聞きたい！

体を
はなれた
肝なんて
どこの世界に
あるのかね
――!?





人のことは笑えないよおサルさん!!

林をはなれて木の実を求めたのはどこのどなたでしたっけ――!

ぎゃふん

わはははこのセミナー始まって以来これほどギャグっぽい作品もめずらしい

でもちゃんと仏典に説かれている説話ですヨ

子供のころ聞いた日本昔ばなしにそっくりな話があったよ

サルを運んだのがクラゲだったりタコになったりしてたけど…

そういえば

骨がある

インドの仏典がもとになって昔からしたしまれてきたんだろうね

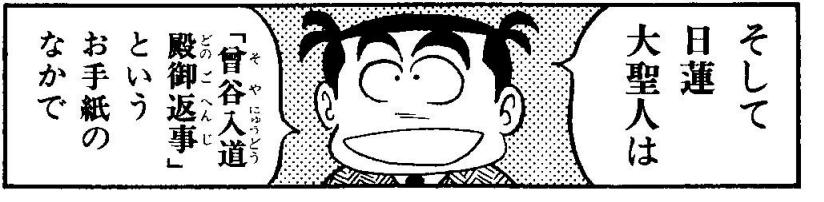
…で、これのどこが大事な話なのさ

ただのバカ話じゃないの？

仏典にバカ話があるわけないでしょ

自分の命の外に幸せを求めてもどこにも無いということです

あくまで平易にいえば



されば題目をはなれて
法華経の心を尋ぬる者は
猨をはなれて肝をたづねし・
はかなき亀なり、
山林をすてて菓を
大海の辺にもとめし
猨猴なり、
はかなしはかなし

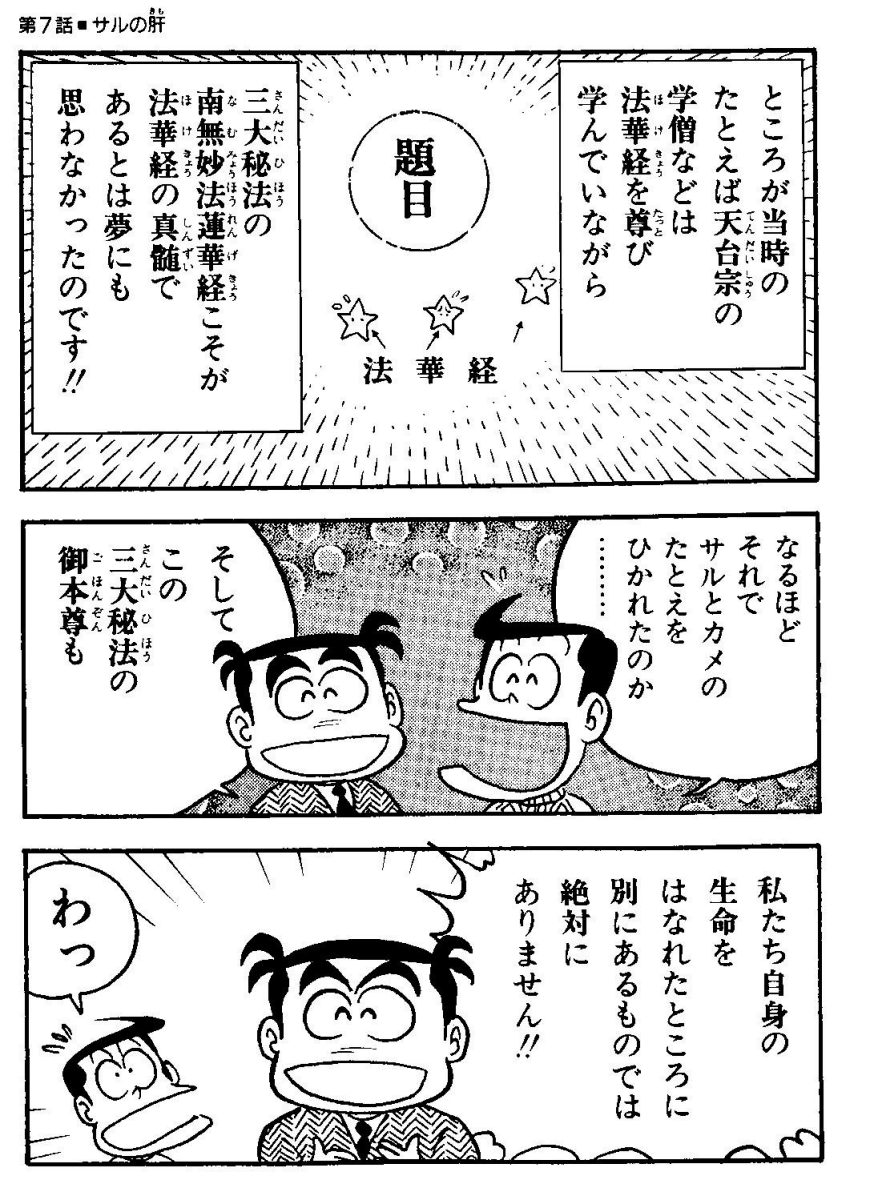
（御書一〇五九ページ）

と
仰せになって
います

サルとカメの
話ものべられず
この一節が
いきなり
語られているのを
みても

当時から
誰でも知ってる
有名な話
だったんだね

釈尊の仏法の
究極である
法華経二十八品も
日蓮大聖人の七文字の
法華経の中にことごとく
収まってしまいます


ところが当時のたとえば天台宗の学僧などは法華経を尊び学んでいながら
題目
法華経
三大秘法の南無妙法蓮華経こそが法華経の真髄であるとは夢にも思わなかったのです!!
なるほどそれでサルとカメのたとえをひかれたのか……
そしてこの三大秘法の御本尊も
私たち自身の生命をはなれたところに別にあるものでは絶対にありません!!
わっ

末法に入って
法華経を持つ
男女の・すがたより
外には
宝塔なきなり、
若し然れば
貴賤上下を
えらばず
南無妙法蓮華経と・
となうるものは
我が身宝塔にして
我が身又多宝如来
なり

（阿仏房御書、御書一三〇四ページ）

仏の生命―仏界を
法華経では
巨大な宝の塔
『宝塔』として
あらわしています

塔婆なんか
じゃありませんヨ

御本尊を信じ
題目を唱えぬく
私たちの
生命の中にこそ
仏界がある！

外に求めても
無意味だと
いうのです

そうだよね

それを
もし
ここではなく
どこか特定の
ところに行って
拝まなくては
仏には
なれないのでは
なかろうか
とか
自分以外の
何か特別な人に
拝んで
もらわなくては
成仏できない
そうだよ
御書は部分で
大聖人の仏法は
別にあるんだ
へえー
御本尊によって
いろいろ
功徳がちがう
なんて
言いだす
人がいたら
どう思う
？
体の外に
肝があると
思ったカメや
海の中に
木の実を求める
サルと同じ
姿だね～
よーするに
それはもう
仏法
ではない
外道の
姿です
たしかに
そうで
～す

大聖人の仏法は
あらゆる人に
ひらかれています
醜い権威主義を
打ち破って
全人類に
大聖人の仏法の
偉大さを証明する
時が来たのです
民衆仏法の
大勝利
だね——!!

サルとカメの話で
仏典では
肝は単なる
内臓ではなく
「心」そのものと
して説かれて
います
よーするに
肝を
生命のシンボルに
あつかって
いるのです
びっくり
すると
「肝をつぶす」
なんていうのも
そのころの考え方の
なごりなんだ
余談ですが
そして
木の実も
食べ物
つまり
命なんだ

第8話

乞眼(こつげん)のバラモン

☆布施行…財物を施す（財施）ことと、法を説く（法施）こととがある。

それを知った第六天の魔王は人の成仏をさまたげる最もてごわいはたらきを擬人化したもの

やつめをこのまま成仏させてなるものか

よしわしが邪魔をして地獄におとしてくれよう…

別にあんなのが睨んでるわけじゃないよね

いまはくわしく説明しませんけど

人々を不幸におとしいれる元品(根源)の迷いともいえます

おまちください

彼の前に人品すぐれたバラモン僧の姿となって出現した

あなたですな

長年にわたり布施行を積んでいる高徳の尊者は…

はい

私は自分のものをすべて他の人に施す修行を重ね

仏の道を求めているものです

尊いお心がけじゃ…

それになんと美しいきよらかな目をしておられることよ…

その目が欲しうなった…

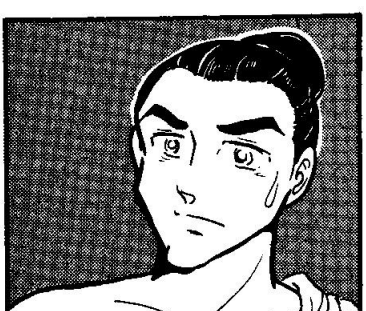
拙僧のねがい叶えていただけるであろうな…

えっ

これまでにない求めにさすがの尊者も驚いた

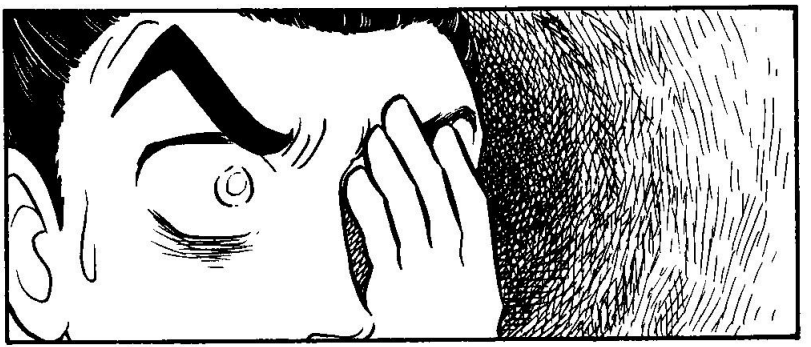
こんな目玉あなたに使いみちはありますまい

何かほかのことであなたにしてあげられることはありませんか



布施行などと口先だけのことであったか…
目玉をくれれば大切にして宝ものにしようと思ったが…
おおまちください!!
わかりました…そこまでおのぞみとあらば…
うっ
……さあ
どうぞ…お持ちください
ふふ

臭い



ぺっ
こんなものを
くれよう
などと
生意気なッ
ぴしゃっ

老バラモン僧は
文字どおり
身をけずっての
ひたむきな
布施行に

難クセをつけ
バカにし
つばをかけ
なげすて
ムチャクチャに
ふみにじり

ひえええ
ええええ〜〜〜

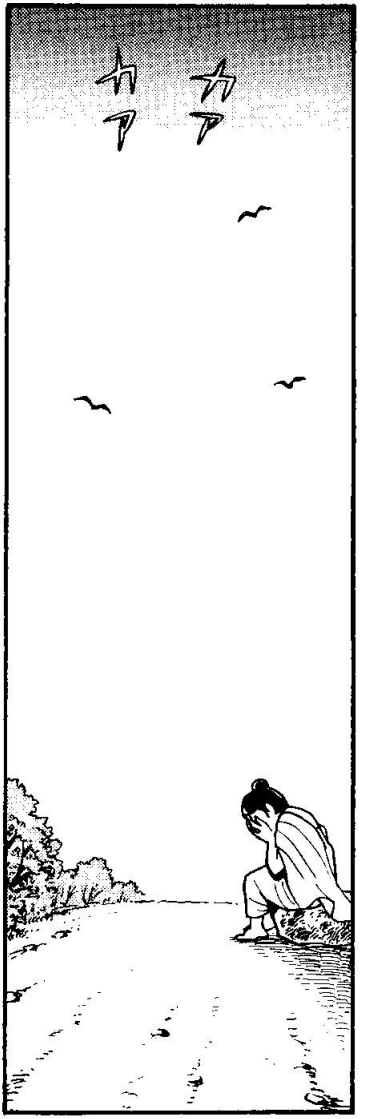
ハラたつな〜〜

こんなヒドイ人間いるわけないよー

さあどうかな…

悪鬼入其身という

ふん思い知ったか


カア
カア

いったい
これまで
してきたことは
何だったの
だろう…

あの僧は
むりやり
もらって
おきながら
…
こんな
衆生(しゅじょう)を相手に
布施(ふせ)の修行(しゅぎょう)を
つづける必要が
あるのだろうか…

もう少し
ちがう
修行(しゅぎょう)の道が
あるのでは
なかろうか
……

☆小乗教…自己の人格の完成のみを目的とした教え。

尊者は
退転した
つもりは
まったく
なかった

ただ
自分のみの
悟りを
求め

小乗教☆の
修行に
一歩後退した
だけであった

しかし
その
わずかな
一歩の
後退が

限りない
転落の
はじまりで
あった

真実の
成仏への道である
菩薩行を退して
小乗の教えへ
「退する心」が
生じたために

つまり
第六天の
魔王に
敗れた
尊者は

その後
無量劫という
長いあいだ
無間地獄の
境涯を
さまよったのです

ひえええ〜

だって悪いのはバラモンのほうだよ
そんなことはわかってます
当然です
しかし退転するしないはこっちの問題です
相手は信心をやめさせようという「魔」のはたらきにすぎないのです
それを見破ればこっちの勝ちなのです!!
仏法は勝負!
尊者はバラモン僧という「外敵」に負けたのではありません
えっ
それじゃなんに負けたの
こんな思いをするくらいなら……
自分の中の「己心の魔」に負けたのです
はーっ

☆行学：仏の教えを実践すること。

行解既に
勤めぬれば
三障・四魔・
紛然として
競い起る

種種御振舞御書
（御書九一六ページ）
兄弟抄
（同一〇八七ページ）

尊者の修行は
あと一歩で
悟りに到達する
ところまで
きていました

だからこそ
これまでにない
きびしい形で
魔が競い
起こったのです

こちらの
心からの
善意を
くじかれ
うらぎられ
ふみにじられ
バカにされ
あざけられ
……

それも
当時の
聖職者
バラモン僧
という
高い身分の
姿で…

信じられないキビシイ難です

尊者が
悟り一歩手前で
なければ
こんなスゴイ
難は
あらわれて
くれません

くれない…

え？

と…
いうこと
は？

？

そうです！

☆仏果を得る…仏になることができること。

今回の宗門問題もまさにこの話そのままに起ったことがよくわかるでしょう

外面は最も尊い聖職者の姿を装った

第六天の魔王天魔が学会総体の前に立ちはだかったのです

まったく同じパターンです

実に粉らわしい姿で!!

池田先生と私たちの血と汗の四十年に及ぶ外護と供養を受けておきながら

そのまごころを平然とふみにじり権威のおどしをかけてきたのです

その正体を見抜きこの大難を乗り越える人が賢者なんだ!!

怒りつつうれしい……

ばんざーい

☆会座…仏が法を説く場所。

せっかくのチャンスを尊者はおしいことしたねえ…

彼のどこかにこういう姿勢があったのかもしれないね…

○自分のための信心の修行なのに
「人のためにしてやっているのだ」という勘違い、おごり
○人に尊敬されたい自尊心
○信心が義務的になり、受け身

私たちももっとも気をつけねばならないところです

己心の魔です

無量劫の間悪道を流転したのち尊者は舎利弗となって釈尊のもとに生まれ

法華経の会座☆でやっと成仏の約束をうけることができたのです

めでたしめでたし

いつかは救われる時がくるんだなあ……

でもスゴイ回り道

第9話

500頭のサル

仏教発祥の地インドを月氏国（月の国）ともいうんだよ

え そうなの？

そして日蓮大聖人はこのようにのべられている

仏法は
月の国より始めて
日の国にとどまるべし
月は西より出で
東に向ひ日は
東より西へ行く事
天然のことはり……
——四条金吾殿御返事
（御書一一六五ページ）

釈尊の仏法はインドからシルクロードをとおり日本へと伝わった

そして月が沈むともいうべき末法の時代になり

日本に日蓮大聖人が出現され

今度は大聖人の仏法がインドのみならず全世界へ弘まっていく

これは自然の道理だというのです

なんだかスケールの雄大なはなしだなあ…

池田先生がはじめてブッダガヤを訪問してことし(平成3年)二月でちょうど三十年

大聖人のお言葉は現実のものとなって

インドや世界の百数十ヵ国にこの正しい仏法が弘まっているんだ

ひえ〜〜〜

まあ
そういう
わけで

月にちなんだ
たとえや
説話は
仏典に
たくさん
でてきます

へえ〜〜〜
どんなのが
あるの？

サルが
水の中の
月をとろうとした
はなし
知ってる？

あ
なにかの絵で
こんなの
見たよ

このもともとも
いうべき
はなしが

「摩訶僧祇律」
という
仏典に
あるんだって

インドの
迦戸国の
山奥に
五百のサルがいて

彼らは
毎日
林の中で
あそんでいたが

ある夜
巨大な木の下に
使われなくなった
古い井戸を
見つけた

その底に
月が
こうこうと
輝いて
いた——

むろん空には本物の月がうかんでいたのだが

井戸の月に目をうばわれたサルたちはまったく気づかず

サルのボスがこのように言いだした

月は落ちて井戸の底にある

これをとって我々のものにすれば闇夜もおそれなくてすむのだ！

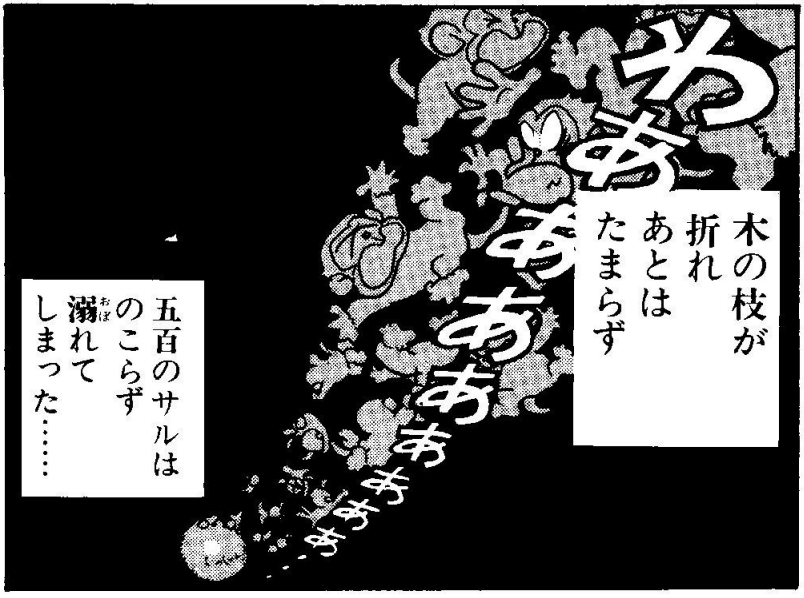
お〜〜

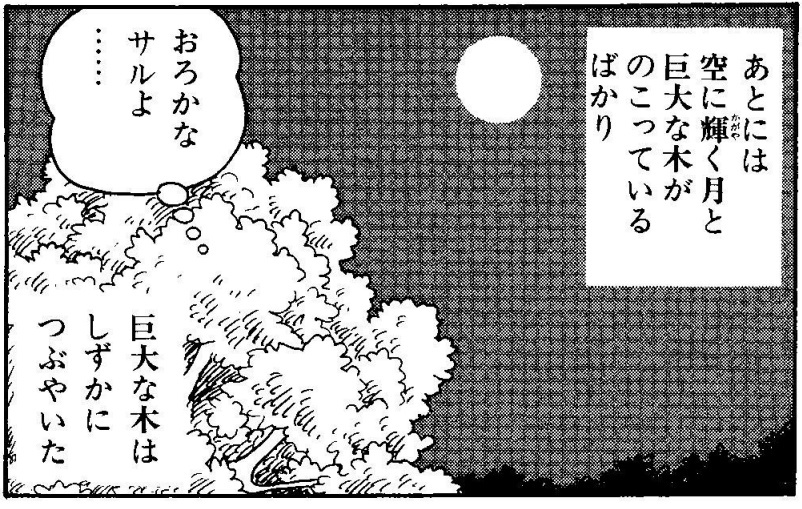
しかしそれはむずかしゅうございますよ

ちょうどつごうよく巨大な木があるから

さあ わしの しっぽに つぎつぎと ぶら下がって いくのじゃ
おー それは いい考え
さー つかまって つかまって
いてー 顔を ふむなっ
おすな おすな
こうして 五百の サルは 一頭 また一頭と
井戸の月 めざして ぶら 下がって いった

がんばれ
がんばれ
どうだ
月は
とれたか
こりゃあ
思ったより
深いぞ
もっと
おりて
こ〜い
く〜
くくくっ
ま……
まだか…っ
あ
ボキッ


わあ
あ
あ
あ
あ
あ
あ
木の枝が折れ あとはたまらず
五百のサルはのこらず溺(おぼ)れてしまった……


あとには空に輝(かがや)く月と巨大な木がのこっているばかり
おろかなサルよ……
巨大な木はしずかにつぶやいた

月をとり闇をなくして大勢の者をすくうなどと言っておきながら

わずかな数の仲間さえまちがった方向にみちびいて

あげくのはてにもろともに溺れ死んでしまうとは

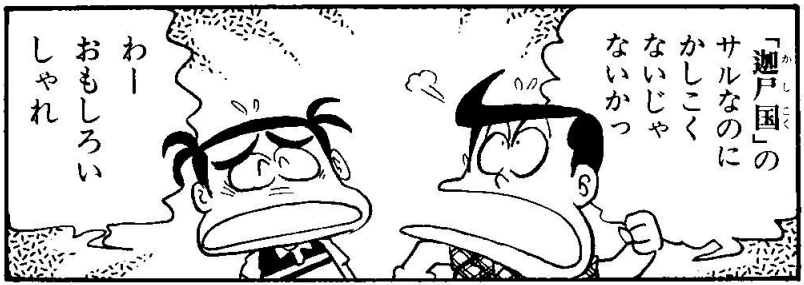
こんな連中にどうして

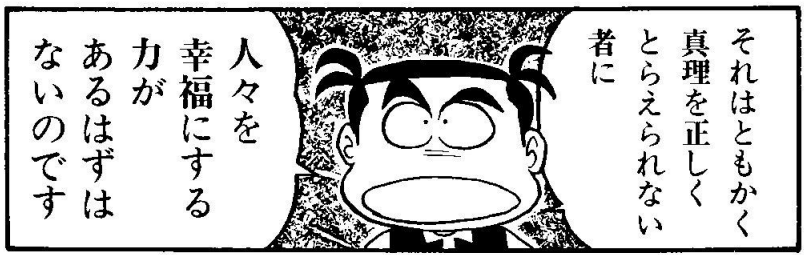
世の人々をすくうことができるものか…と

木が言っていましたとさ

わあ〜〜強烈

ちょっとぞっとするはなしだね


「迦戸国」のサルなのにかしこくないじゃないかっ
わーおもしろいしゃれ


それはともかく真理を正しくとらえられない者に
人々を幸福にする力があるはずはないのです

まちがった指導者にひきいられた人々の末路は
いつの時代もあわれなものです
たしかにそうだ……
いまは日顕宗がいちばんみじめ

☆六群比丘…釈尊在世中に、一群となって破戒行為（悪行）をしていた六人の悪僧。

☆六師外道…釈尊在世当時の、中インドに勢力のあった六人の外道論師。

いま、わが創価学会が
広宣流布をして
日本民衆を
救わんと
立つにあたって
それを邪魔するのは
大聖人様の時に
邪魔した坊主が
いま日蓮正宗の中に
仮面をかぶって
生まれてきて
やっているのです…
（昭和31年2月・佐渡御書講義）
とても
よく似てる
でしょう
ひえーっ

いつの時代も同じ形をとるんだね〜〜〜
六師外道も六群比丘も
戸田先生は宗門の今日の姿をちゃんと見抜いておられたんだね
仏法の方式の上からも

真実の月（正しい法）に目をそむけ
水の中の月（かりそめの低い法）を正しいと思いこんでしまえば

けっして月(幸福)を手にいれることができないばかりか

自分も眷属(けんぞく)(つき従う人)もともどもに苦しまねばならず

せっかくのけんめいな努力もムダになってしまうのです

今の世にも正しい仏法を知らないで

低い宗教やあやまった思想を正しいと思いこんでいる多くの人々は

水にうつる月を追っかけている姿なのか〜〜

実には無き
水月なれば
月とられずして
水に落ち入って
猨(ましら)は死にけり
——寿量品得意抄
(御書一二二一ページ)

日蓮大聖人は
このたとえを
引用されて
低い教えの
むなしさを
おしえられて
います

ふーん

あ〜〜〜っ
ホントの月が
見えなく
なったよ
どうしよう

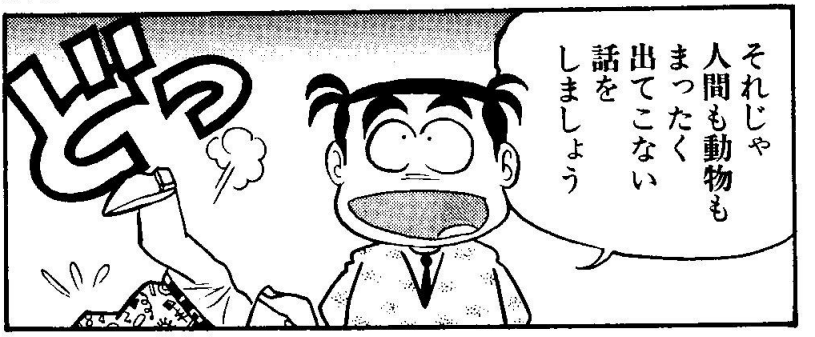
雲にかくれて
ふつうの人には
見えなくても
月はいつも
ある——
という
言葉で

仏法の
不滅(ふめつ)を
のべた
たとえも
あります

月の
はなしは
いろいろ
あるん
だよね

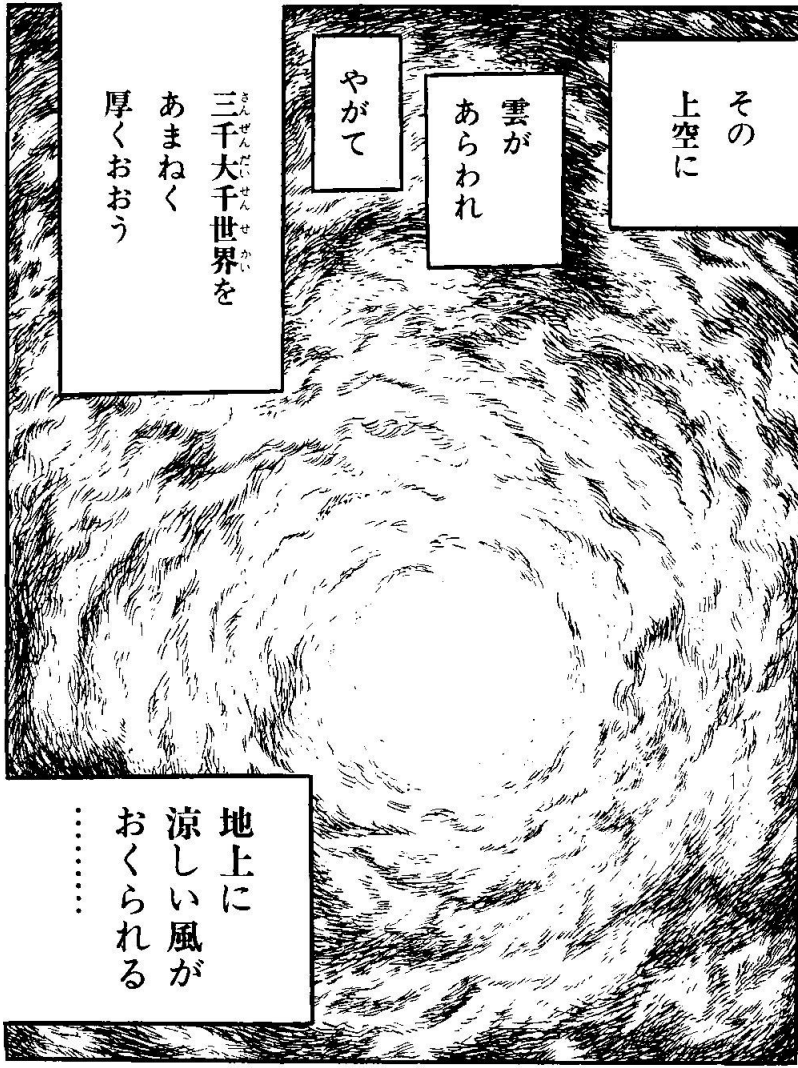
第10話

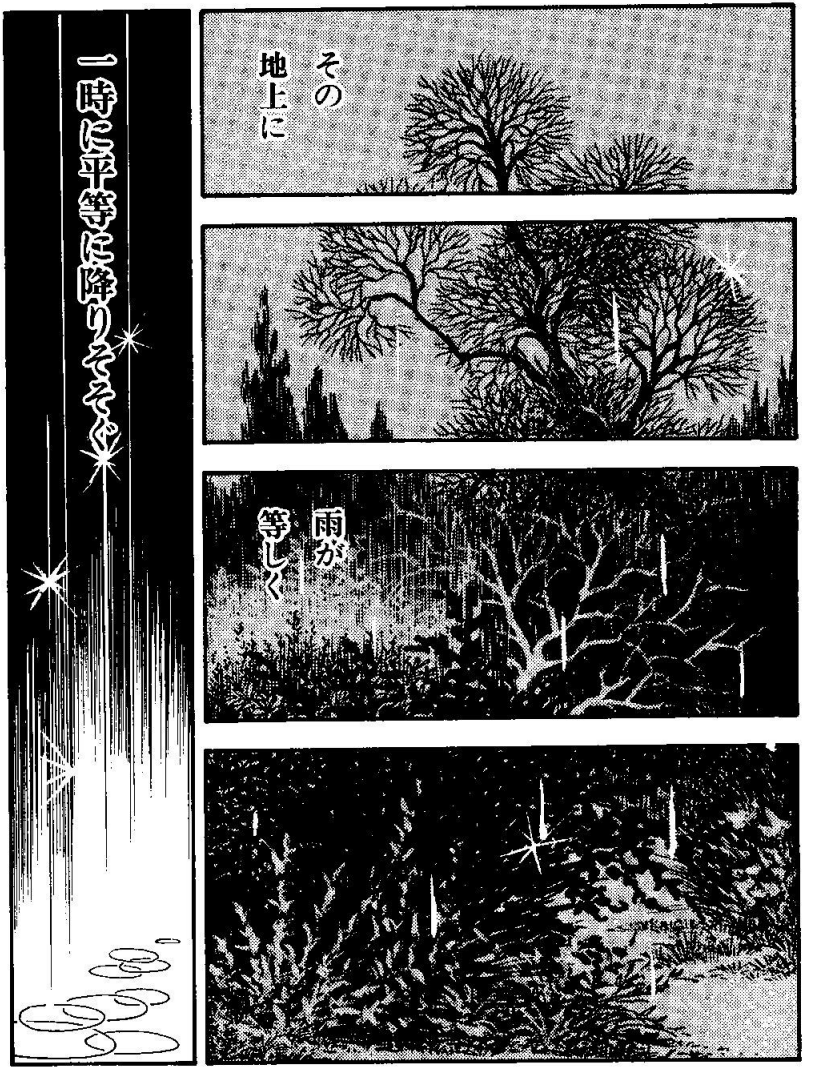
三草二木のたとえ


それじゃ人間も動物もまったく出てこない話をしましょう
どっ

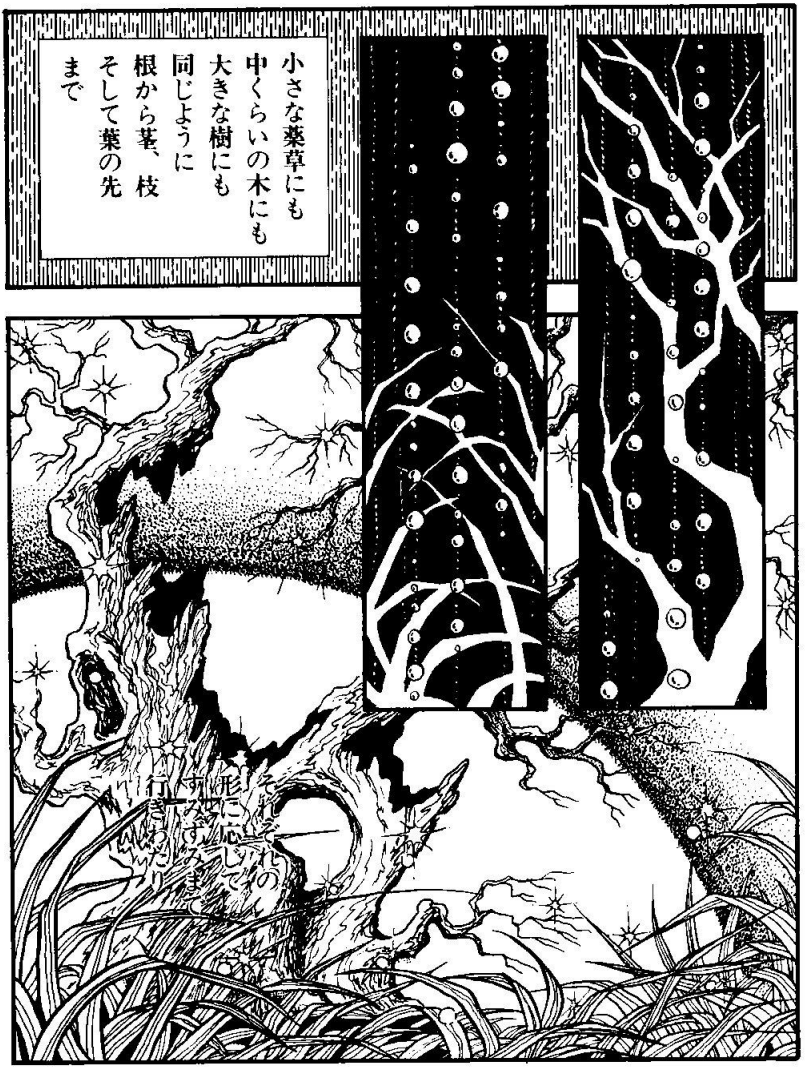
なにも出てこなくってお話なんかできないでしょう
とんでもない
この大自然の偉大なドラマです！

これは法華経の薬草喩品というところに出てくる話なんだけど
よく知るがよいたとえば三千大千世界の
世界の山や川谷や土地に生ずる草木や薬草……


その
上空に
雲が
あらわれ
やがて
三千大千世界を
あまねく
厚くおおう
地上に
涼しい風が
おくられる
……


一時に平等に降りそそぐ
その
地上に
雨が
等しく

その水の
恩恵は
一切の草木
叢林(そうりん)
そして多くの
薬草を
うるおして
いく……


小さな薬草にも
中くらいの木にも
大きな樹にも
同じように
根から茎、枝
そして葉の先
まで
それぞれの
形に応じて
すべてを
ぎーんぶ
ふくこーりゅー
行き渡らせる

同じ雲から
同じ雨が
同じ大地に
平等に
ふりそそいで
いくのに——

植物はみな
同じ雨をうけ
同じ大地から
生じて
いるのに

その植物の
種類と特性に
応じた姿や
形で
みな個性豊かに
花を開き
果を実らせて
成長してゆく—

これで「三草二木の譬」という仏法説話はおわりです
なんなのこれ～？
これまでの説話とちがってアタリ前のハナシだよ～～
雨が降っていろいろな草木がしげりますってこと～？
その雨が大事なんだよね
雨にいろいろな雨というのはある？
ないよぜんぶ同じH_2Oだよ

それを
一雨と
いいます

降りそそぐ
雨は同じ
一雨です

一切が
生じる処も
同じ一つの
大地です

にもかかわらず
咲きほこる草花は
何と個性豊かな
ことでしょうか

同じ大地に生じ
同じ雨を受けながら
それぞれの性分が
のびのびと
発揮されていきます

一雨所潤「ひとつの雨の潤す所」

一地所生「一つの大地より生ずる所」

法華経にはこのように説かれています

その一雨とは……？

一仏乗をたとえています

すなわち大御本尊をいいます

あやっぱり

南無妙法蓮華経の大功徳こそ雨であり、経文には「平等の説」とあります

また、三千大千世界の大地とはこの世界を指しています

この世界にあまねく降りそそぐ雨とは——

南無妙法蓮華経の一大法雨を意味します

すると咲きほこる草花は……

私たちすべての衆生をいいます!!

私たちはこの大宇宙に生まれ住んでいます

この生命の本源を南無妙法蓮華経といいます

「生命」という共通基盤からみれば

だれもが等しく「妙法」の当体であると説いています

仏法はここまで深く説いているからこそ

一切の人々に差別はなく平等だと言いきることができるのです！

絶対平等の思想なんだね〜〜

しかしその あらわれ方は おどろくほど 千差万別(せんさばんべつ)です

立ち場も 見ためも 個性も 行動も

顔もみんな
ちがうし
男女の
ちがいもある

同じ人など
一人もなく
社会での
役割も
みな
ちがってくる

農業、漁業、
林業、自由業、
実業家、商人、
インストラクター
スポーツマン

サラリーマン、
芸能人、公務員、
学者、工員、
政治家、主婦、
芸術家、武道家、
……
きりがないから
やめるけど

君と僕でもこんなにちがうじゃない

おなじ顔にはなりたくない

おたがいさまだいっ

にもかかわらずみなこの仏法

南無妙法蓮華経で自分を最高に輝かせていけるのです！

五十億の人間がいれば五十億のちがった悩みや問題があるでしょう

当然です

しかしたった一つの同じ題目がこれらの問題をすべて解決してそれぞれの最高の人生を築いていけるのです

低い思想は人間を同じにつくりたがります
個性を殺し決められた方向だけに向かわせようとしがちになります
この信心はまったく逆です
信心が深まれば深まるほどそれぞれの立場でそれぞれの形で自分にとって悔いのない人生をおくる知恵と力がわきあがってきます
それがつまり差別がないということです！
わっ
南無妙法蓮華経の功徳は一切衆生に等しく降りそそぐのです!!

救える人と救えない人がいるというのでは不完全なものというほかありません

すべての人が最大限に能力を発揮し幸福をうたいあげることができる人生——

それを可能にするのがこの妙法なのです!!

つまり一雨なんだね

なお

法華経は長い経文であり説法の間にさまざまな説話がちりばめられつながって語られていきます

だからこの話もその前の話をおぎなって——

わ

実相一味の法が機によって三乗、五乗の法にわかれることをしめし……

何だかわかんない

わかんないでしょ

だからそれはもっとコマかく知りたくなってから研究してちょうだい

ともかくこの妙法の功徳はいかなる境遇いかなる性質の人も平等に幸福という実証をつかめるということです!!

うーん日顕宗とまったく違うということがわかった!!

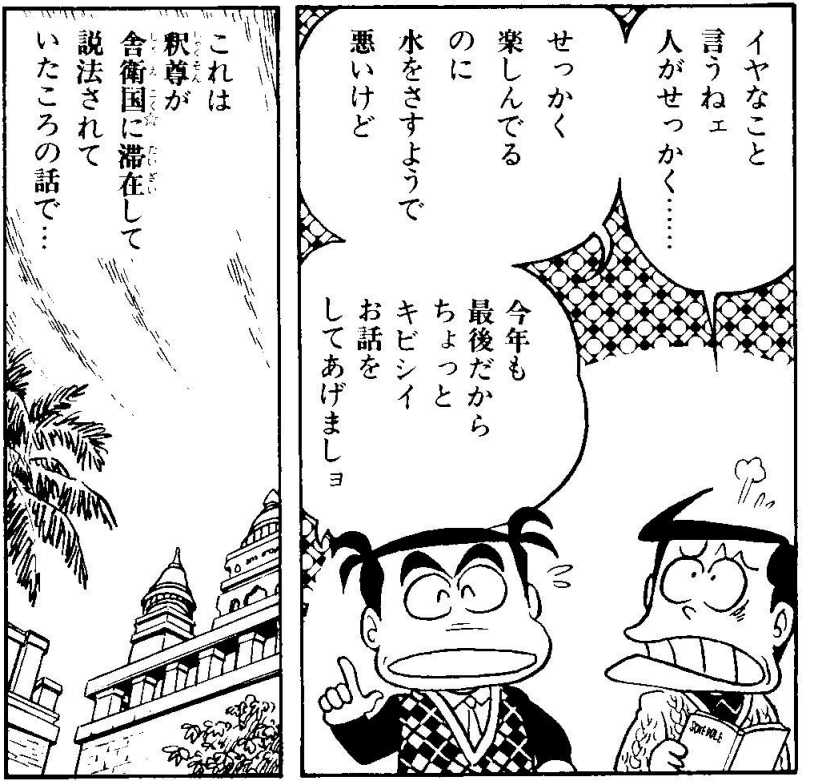
この絶対平等の平和思想を全世界に訴えて

酸性雨なんか降らない世界を築きたいね

第11話

老バラモンのぜいたくな邸宅

☆舎衛国…釈尊在世のころ、中インドにあった国。城の南に祇園精舎があった。



☆無常：常に変化していて、瞬時も同じ状態にとどまっていないこと。

その国に
年をとった
一人のバラモンが
いた

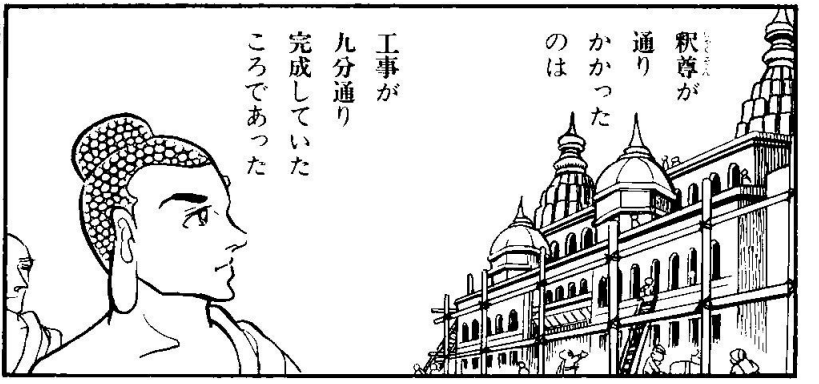
大変な
金持ちで
あるが
人となりは
愚かで
道徳を知らず

この世の
無常に
思いをめぐらす
こともなかった

そんな彼が
ある時
広大な屋敷を
つくりはじめた

信徒や王族から
受けた供養の
莫大な金を
かけた
豪華な
もので

工事は
老バラモンの
陣頭指揮で
すすんでいった



☆仏眼…仏がそなえている眼。過去、現世、未来そしてあらゆるところの一切を正しく見通す仏の眼。

☆阿難…釈尊のいとこで提婆達多の弟。釈尊の十大弟子の一人。

はっは
前殿は客の
応接室

後堂は
居間にします

東西の
たてものは
子供部屋と
そして
使用人の
住居です

礼拝堂は
小さいけれど
地下プールと
アスレチック室は
大きくしました

いやいや
いま座して
語る余裕は
ありませんのじゃ
ごらんの通り
屋敷が完成に
さしかかってますでな

尊いお話かも
しらんが
てみじかに
示して
もらいたい
ですな

……
そうですか

子や財があると
愚かな人は
それに目先を
うばわれ
汲々としてしまう

いつしか
自分自身が
自分のもので
なくなって
しまうのです

生命が
刻々と
変化していく
ことも知らない……

愚かな人ほどかえって自分が愚かであることを気づかず
自分はかしこいと思ってしまう
しかしそれこそが愚かの極みなのです……
……
？
まあ……よくわからんが今日はいそがしいまた私のひまな時に出直して来て説明してくだされ！
……

釈尊は
この老いた
バラモンを
哀れみつつ
やむなく
その場を
立ち去ったが

まだ
それほど遠くへ
行かない間に

工事中の
屋根の材木が
老人の頭上に
落ちてきたので
ある…！

家族は泣き周囲は大変おどろいた

老人の死はすぐ釈尊のもとにつたわった

そうか……

釈尊は途中で通りかかったバラモンたちにこの話を教え説法し

バラモンの多くは釈尊の弟子になったという……

という話が法句譬喩経という経典に説かれているんだけどどう思う？

う～ん人の生命は一寸先は闇というけど……

だから今のうちにたくさんあそんでおかなくちゃ……

というのは…だめ？

だめ

やっぱり

人はだれでも明日のことはわからないものです

でも少なくともそのことだけはよくわかっているから人間なのでしょう

☆常住…過去、現在、未来の三世にわたって常に存在し生滅変化がないこと。

その姿勢も
求める努力も
怠って
いるのが

凡夫、とくに
現代人の
悲しむべき
特徴なのです

無常を
超える
常住の
法…

それは？

仏法の真髄
「南無妙法蓮華経」
こそが

生死を超えた
永遠の生命を
悟りきわめ
絶対くずれぬ
幸福を
つかむことの
できる法であり

それを実践し
体得して
いけるのが
私たちの
この信心なのです！

うーん
やっぱり
そうか
日蓮
大聖人は
このように
のべられて
います
（すべての人は
無常をまぬかれないから）
されば先臨終の
事を習うて後に
他事を習うべし
妙法尼御前御返事
（御書一四〇四ページ）
他のことを
しちゃいけないと
言ってるんじゃ
ないのです！
まず、
一番大事な
ことを知れば
それを基盤と
して
あとは
ゆうゆうと
人生を
楽しんで
いけるよと
おおせ
なのです!!
あー
それ
いいなァ

これも有名な御金言です

蔵の財よりも
身の財
すぐれたり
身の財より
心の財
第一なり

三種財宝御書
（御書一一七三ページ）

財産も健康もたしかに幸福の一要素です

しかしまず常住の宝心の財を人生の第一義におくべきだと仏法は教えているのか…

ぜいたくにいそがしくて法を学ぶヒマがないよ！

と言ってる間に寿命を終えてしまった老バラモンのあやまちだけはくりかえさないようにしたいね

最近もいいお手本があったから

完